

宣証 — Sensyo —

— 新年のご挨拶 —



日本中で猛威を振るったインフルエンザA型。何と1月1日にかかってしまいました。一気に熱が上がって、身体がだるい思いをしました。そんなときにこそいろいろなことが起こるものです。今年は当初からの出来事を思い返すと、しっかりと祈って乗り越えていかなければと、自分に諭す始まりでした。

さて、今年は「地域支援ネット架け橋」から「宣証」と変更しました。内容は宣証の取り組みについてより具体的なことを記事とし、その結果を今まで以上に報告できるようにしようと思っています。

今年も前年と変わることなく応援の程をよろしくお願いいたします。

中澤竜生

◆宣証の取組に欠かせない捉え方 (文責：中澤 竜生)

今年2月、一回目の実践宣証会議をイエス福音教団宮城教会にて開催しました。月に一度開催される会議は、宮城県登米市と隣接地となる南三陸町で活動するクリスチャンによる会議です。集まる人数は平均12名で超教派の集まりです。震災前から所在する教会も参加しています。



【「そもそも」】

このようなことをお話しすると叱られるかもしれませんが、宮城沿岸部における教会の中では信徒の高齢化と減少により、運営があやぶまれていました。それと、牧師が生活できないために教会を止む無く閉鎖、あるいは数名の信徒で教会を守り、同教団で近郊の牧師が日曜日の午後か夕方、別曜日に礼拝を捧げるなどの対策がとられていました。沿岸部のみならず東北での宣教には大きな難題があったのです。

【「そもそも」が消えた】

災害でも異例と言われる巨大地震。この災害がなければ果たして宣教師をはじめ布教者が地方と言われるこの場所に来たのだろうかと思います。間違いなく災害で注目されたと言えます。それまでは、どの市町村も財政圧迫、交通不便、そして就職難で若者は都心へと仕事探しのために故郷を離れるケースが多くあったと考えられます。

それがこの震災で一変します。つまり、「そもそも」が消えたのです。支援に駆けつけた若者の中には、関わり続けることにより使命感を抱き、地元に貢献しようと残る決意が与えられた人たちが多くいます。そういった人たちや、外部からのボランティアによって様々な考え方や文化に触れた地方は、閉鎖的から解放されていきました。

また災害は世界中からあり得ない経済を地方にもたらします。その経済によって特別な予算も生まれ、復興のために使われます。

まさに災害は闇で全てを覆いましたが、徐々に思わぬ光も与えたのです。ですがその光、他力による恩恵も時が経つにつれ、薄らいできていると私は思います。

【「そもそも」が息を吹き返す】

市町村によっては財政と人口減少が厳しくなっています。だからといって、手をこまねいている訳ではありません。交通整備をし、新しい道路を建設し、短時間で移動できるように今も新たに造成されています。そして海外からの旅行者も含め、宮城県あるいは東北に来ていただけるように努力と工夫をしています。

つまりこれを機に「そもそも」に呑み込まれないようにしようと奮闘しているように私は見えるのです。ここで大切なことは「これを機に」ということです。きっとこの言葉は良くないと思います。

ですが、生きている人たちは生活の改善を望むもので、不便さを決して望みません。「少しでもより良い環境を」と考えます。

災害で壊滅した自治会は外部からの意見も受け取りながら以前にないコミュニティを切り開いています。つまり災害を通して目線が変わったのです。

【変わる】

では、何が変わったのでしょうか。第一に年配者が変わったように思います。

自治会をリードしているのは一線を退いた年配者です。隣人を思いやる方が多く閉鎖的ではありません。聞く耳も持っていると言えます。「九死に一生を得る大変な経験をしたのだから互いに助け合おう」という精神です。このような方々と接する場合は、丁寧に敬う心をもって向き合いますと、私の話も大切に聞いてくださいます。

ある方は、私を「戦友」と言いました。歳が相当離れているのですが、なぜそのようなことを言うくれるのでしょうか。それは、新しいコミュニティである復興住宅での関わりを通して関係が深まったからだだと思います。

そこに住む人のためにコミュニティを豊かにしようと努力しますが、若い方が少なく、日々の生活に追われて忙しい。これ以上、何もできないというのが実情です。生活支援センター員の方は若く、集会所にいて対応はしてもらえますが、毎日が忙しく、やはり人手不足と言えます。余談ですが、今の南三陸町は年配者が圧倒的に多く、若者が少ないのが現状です。人口も震災時は約17,000人でしたが、現在は12,000人となっており、今も人口減少が起きています。



上図：経済新聞の図より転載

それで私のような者が行くと沢山のお話が出るのです。そして、今も私のことを「先生」と言います。私は「中澤で良いですよ」と言いますが、いくら説明しても変わらずに呼んでくださいます。それよりも、私を「牧師」であると知って呼んでくださっているのだと思い、それに恥じるのがないようにと心掛けることにしました。

何度も言いますが、震災まではあり得ないことです。またあり得ないことが続くためには、お話を聞いてもらえる関係が大切だと思っています。

コミュニケーションが変わった一方で震災から変わったことは第二に、立派な建物や便利性を追求する過度な工事、少子化、高齢化、就職、経済などの課題への対策を後回しにする政策です。

私は一抹の不安を抱きます。ですが、私は政治家ではありません。福音に仕え、福音を伝えるクリスチャンです。状況に振り回されず、私の役目は寄り添いつつ、安心を得るはずの福音に仕える献身を全うしたいと神様に願っています。



【福音に仕えること】

大切なことは変えません。これは大切なことです。だけれども福音を伝え、広がらないことには対応が必要です。

2011年3月11日にこれほどの震災が起こるとは思いもしませんでした。しかも東日本大震災以降、毎年のように災害が起きています。

災害が起きたところでは、クリスチャンが必死になって支援活動が続いています。それにより教会、家の教会等も増えています。ですが、本当に「そもそも」の課題を解決したと言えるのでしょうか。福音をあまねく伝えるクリスチャンの役目は今も続いていて、これを「恵みの時代」と捉えるならば、伝えることを広げていく必要があります。

誤解しないでほしいのは、決して災害前はしていないというわけではありません。どこの教会も伝える最大限の努力はしてきたと言えます。では何が原因なのか。この続き後ほど。

【宣証の入り口】

私は奇蹟を信じます。そして、証人〈あかしびと〉として現場に立ちたいと思っています。それは反省と悔いから決めたことでした。

東北では約16,000人の震災津波による犠牲者がでました。亡くなられた方でどれだけの人に愛と希望を与える福音を聞くチャンスがあったでしょうか。「福音を聞くチャンス」とは、日常でクリスチャンと良い交流を持つことができ、相手も信頼をもってくれている関係です。伝えるためだけの改宗目的型の関係ではなく、その人をそのまま愛し、日常的な良い関係から「あかし」する関係です。そうすると、クリスチャンに対する誤解、偏見がとれ、聞く耳を立ててくれる関係が育まれます。

私はその様な関係を持っていませんでした。他の宗教者と分かれると嫌で交流を絶っていました。ですが、この震災で私も変えられました。私が通う南三陸町の人口は2011年3月11日時点で17,000人。震災で亡くなった方の分まで福音を伝えようと思ったところ、前述した犠牲となった方々と同じ人数だったことから、神様が示してくださった地と考え今に至ります。

【実践宣証会議での話】

東日本大震災より7年が経過。今年で8年目になる活動は支援だけでなく、安否を問う関係へと広がっています。これも皆様からの実質的な応援があつてのことです。今年もその関わっている多くの方々と宣証活動を続けます。しかしながら、この活動は一人では難しく、助け合う必要があります。

私の働きについてももう少し詳細にお話しするなら、地域・自治会に向けて、また、異教徒に向けて、あらゆる方々に浅くではありますが、クリスチャンを知っていただく活動です。そこからお声掛けいただいた方ともう一歩詰めた関係を構築してイエス様の話もできるようにしています。私はそのことを「求道者の求道者」と言っています。イエス様に祈ってみようと思える関係を築くのが当面の目標です。



－ 活動報告 －

餅つきが行われました

毎年2月2日、節分を兼ねて餅つきを行なっている『認定こども園 入谷ひがし幼稚園』。入谷町に所在する幼稚園は、隣接する志津川より山手にあります。震災直後からいち早く保育園として開所し、子どもたちを預かりました。自治会長さんから支援の要請があつてから、今も園長をはじめ先生方、父兄さんとの交流があり現在に至ります。杵と臼は、私たちが持参しコミュニティ支援として提供しているものです。この杵と臼は、栃木県農家の藤澤氏から綺麗に手入れし献品していただいたものです。毎回餅つきに協力して下さったのは、入谷さんさん館の館長をされているご家族と、旭ヶ丘自治会長、OM宣教団、茂庭栄光教会、仙台明るい社会づくり運動でした。



－ 今後の活動予定 －

今年も3月9日（土）東松島コミュニティセンターと、
3月11日（月）女川町まちなか交流館にて
追悼セレモニーコンサートが執り行われます。

私たちはこの日を起点として、新たな気持ちをもって活動しています。まだまだ傷跡が残る地、力を合わせて愛と希望を届けたいと願います。

詳細はHP (<https://miyagi3riku3011.jimdo.com>) にて。



◆会計報告

前回繰越金：12,667円

献金収入：660,000円（2018年11月21日－2019年2月25日）

ご献金を捧げて下さった団体様および個人様（敬称省略 順不同）

金原雅子、基督聖協団中川教会、内田フミ子（焼津教会）、本荘憲子、長縄俊一郎、日本イエス・キリスト教団京都聖都教会、東北ヘルプ、基督聖協団青梅教会、東北ヘルプ、基督聖協団若潮教会、田島幸児、基督聖協団西入間教会、都筑コミュニティ教会、佐藤由紀夫、基督聖協団八王子教会、萩原正典、基督聖協団上田教会、ホープチャペル流山、基督聖協団習志野教会、基督聖協団名古屋教会、特定非営利活動法人B.F.P.Japan、萱島キリスト教会、船堀グレースチャペル、伊藤歩、基督聖協団仙台宣教センター、

献金支出：499,442円(2018年11月21日－2019年2月25日)

車両交通費：95,812円（車両経費含む）、事務費・通信費：41,630円、啓蒙活動費：57,000円、

ネットワークサポート：10,000円、慶弔費：10,000円、年中行事費：45,000円、

生活困窮者支援：30,000円、雑費：10,000円、スタッフ費：200,000円

次回繰越金：173,225円

－ お祈りのお願い －

この度は地域支援ネット架け橋のニュースレター「宣証」をお読みくださり、誠にありがとうございます。

地域支援ネット架け橋の活動の主体である「宣証」を継続するために献金を必要とします。

皆様にはこの活動費が満たされること、地域支援ネット懸け橋の支援の輪がより広がること、現場において支援活動を継続する中澤竜生氏、佳子氏のためにお祈りくださいますようお願い申し上げます。

■銀行振込

【銀行名】七十七銀行 宮城町支店

【口座番号】普通 5497795

【名義】キリスト聖協団西仙台教会かけはし会計 中澤佳子

■郵便振替

【ゆうちょ銀行口座名義】地域支援ネット架け橋（チキシエンネットカケハシ）

【店名】二二九店（ニニキュウ）（229）

【口座の記号・番号】02290-3-141031

【当座】0141031

■海外からのご支援

PayPal（ペイパル）を利用することでクレジットカードの使用が可能です。

【PayPal検索用アドレス】

yoshiko.n36@gmail.com



■地域支援ネット架け橋の活動内容はこちらのHPから→ <https://www.kakehashi2013.com>

■お問い合わせはこちらのメールアドレスへ→ kakehashi.net@gmail.com

【事務局】地域支援ネット架け橋

【電話】090-1069-3925

【活動スタッフ】中澤竜生、中澤佳子

【所在】宮城県仙台市青葉区愛子東3-14-22

【発行元】山形県天童市三日町二丁目6-14

【事務スタッフ】中澤義道、中澤愛美